

### 1. 教育の責任

私は家政学科健康栄養学専攻において、主に 2～3 年次の専門科目である臨床栄養学を担当しており、短期大学部では専門分野科目である臨床栄養学各論を担当している。

主な担当科目は以下の表のとおりである。

科目名	形態	開講時期	単位数	卒業必修	栄養士	管理栄養士
臨床栄養学Ⅰ	講義	2年 前期	2	○		
臨床栄養学Ⅱ	講義	2年 後期	2			○
臨床栄養指導論Ⅰ	講義	3年 前期	2		○	○
臨床栄養指導論Ⅱ	講義	3年 後期	2			○
臨床栄養学実習Ⅰ	実習	3年 前期	1		○	○
臨床栄養学実習Ⅱ	実習	3年 後期	1		○	○
臨床栄養学臨地実習Ⅰ	実習	4年 通年	1			○
臨床栄養学臨地実習Ⅱ	実習	4年 通年	1			○
研究課題	演習	3・4年 通年	6			
科目名	形態	開講時期	単位数	卒業必修	栄養士	
臨床栄養学各論	講義	2年 後期	2			

### 2. 教育の理念

傷病者および要介護者の病態や栄養状態の特性に基づいた、適切な栄養ケアを実践するために必要な臨床栄養学の知識と技術を習得させることを教育理念としている。

病院および高齢者施設における管理栄養士としての実務経験を生かし、医療現場に必要な実践的な栄養学を教授しながら、学生の臨床栄養学に対する知的好奇心を引き出し、様々な場面で学生が自ら考え、他者と協力し学び合う場を提供したいと考えている。そして、将来は治療に貢献できる医療に強い管理栄養士を育成することも教育の目標である。

また、学内外の実習等を通して、様々な対象者とコミュニケーションを図り、積極的に交流が図れる学生を育成する。

### 3. 教育の方法

授業内容がイメージしやすいよう写真やイラスト、実物を多く使用し、配付テキストやスライドは見やすいように作成している。

2年次では臨床栄養学の基礎を学ぶため、興味関心が高まる講義内容となるよう心掛けてい

る。例えば、『立てなかったら身長はどうやって求めるの?』、『力士が激やせして道端に倒れていたら、なぜちゃんこをお腹いっぱい食べさせてはダメなの?』、『糖尿病の人はGI（グリセミックインデックス）値が高いものは、一生食べちゃダメなの?』など、まずは『どうしてなの?』から考え、解決するための方法を各自で考え発表してもらおうようにしている。また、血液検査データをアセスメントすることが多いため、理解しやすいよう語呂で覚える方法も取り入れている。

講義の最後には理解度チェック（Google Classroom）を行い、不正解に対するフィードバックも行い、知識として定着するようにしている。加えて、栄養士実力認定試験および管理栄養士国家試験の問題が、今回の講義内容からどのように出題されているのか、過去問の解説なども行っている。

3年次では、様々な疾患の症例を用いて、問題点や栄養食事療法のポイントなどをグループで検討することや栄養指導時に使用する媒体を作成し、プレゼンテーションするなどのグループワークを多く設けている。

また、治療食の献立を各自作成し、その献立に基づいて調理することや様々な条件下でも栄養状態を評価できる身体計測技法など、実際の臨床現場で活用する技術を習得し、2年次で得た知識を応用する機会を増やしている。加えて、授業の内容について考えまとめる課題を設け、意識的に考える機会を設けている。

4年次に行われる臨地実習では、治療食の献立作成や集団栄養指導についての事前課題が多いため、3年次で行ってきた実習内容を復習しながら、実際の実習先で活用できるよう指導している。

#### 4. 教育の成果

##### （1）学生の授業評価

2023年に実施した学生による授業評価は次頁の表のとおりで、概ね良好であった。その他、授業の最終回では受講しての感想と理解度についての調査を独自で行っている。「スライドにイラストが多く理解しやすかった」「国家試験に出るところはマークがついていて、少し国家試験についてわかるようになった」「プリントがわかりやすい」「語呂が覚えやすい」などが挙げられ、グループワークでは、「一つのテーマで検討することが面白かった」「他の人の答えや考えを聞くことで別視点での見方などを学ぶことができて良かった」などが挙げられた。個人の理解度については平均7点（10点満点）で、「臨床栄養学は覚えることが多く大変だ」「あまり復習ができておらず頭に入りきれしていない」「管理栄養士は大変な仕事だと思った」などが挙げられた。

科目名	回答数	開講時期	総合評価値
臨床栄養学Ⅰ	41	2年 前期	4.50
臨床栄養学Ⅱ	36	2年 後期	4.75
臨床栄養指導論Ⅰ	39	3年 前期	4.53
臨床栄養指導論Ⅱ	39	3年 後期	4.33
臨床栄養学実習Ⅰ	39	3年 前期	4.52
臨床栄養学実習Ⅱ	43	3年 後期	4.44
臨床栄養学各論	21	(短) 2年後期	4.81

## (2) 栄養士実力認定試験での成果

2023年12月に実施された栄養士実力認定試験（健康3年）では、認定Aが65.9%と前年度（70.3%）と比較し若干下回ったが、成績優良者に2名選ばれた。臨床栄養学概論では、平均正解率が78.46%と全国平均（74.56%）を上回る結果となった。この試験では2年次に学修した食事療法の基本的な内容が出題されているが、3年次でも対策講座などを開講し、より深く学修する機会が多かったことが正解率につながったのではないかと考えられる。

## (3) 管理栄養士国家試験での成果

2024年3月に実施された管理栄養士国家試験では、合格率が71.0%と前年度（52.0%）と比較し大幅にアップする結果となったが、臨床栄養学における正解率については不明である。国家試験問題200問のうち臨床栄養学26問に加え、応用力試験内で臨床栄養学が関連する問題が半分程度と全体の20%程度を占めるため、国家試験対策講座（セミナー・キャリア開発など）意外に独自の塾を開講し、より加点につながるよう指導している。国家試験も栄養士実力認定試験と同様、2年次に学修した内容が大半を占めるため、3年次、4年次と学修する機会が少なくなる。そのため、空いてしまう時間を補うための学修方法を今後も検討し、合格率を上げられるよう努力していく。

## 5. 教育の改善と今後の目標

学生が意欲的に授業や課題に取り組めるよう、内容の見直しを継続的に行っていくことは勿論のこと、授業の最後にはまとめの時間を設け、臨床栄養学の理解度を上げ知識が定着するよう心掛けていきたい。

PCを使用する資料作成、栄養指導の媒体作成、プレゼンテーションなどを不得意とする学生もいるため、適切なフィードバック方法について検討していきたい。

グループワークにおいては、1グループ4～5人程度で行っていたが、得意不得意だけではなく、作業を行う学生と行わない学生が発生してしまい、得意な学生や努力している学生が進めてしまう傾向がみられたため、今後は、3人程度のグループをつくり、自分の考えをディスカッションしコミュニケーションをはかりながら作業を進め、協力し合う機会も増やしていく。

栄養士実力認定試験および管理栄養士国家試験対策においては、関連する講義内で最後に過去問を解くなどし、試験問題の傾向がつかめるよう講義の見直しを行う。

特に管理栄養士国家試験対策においては、臨床栄養学が関連する問題が全体の 20%を占めるため、『管理栄養士国家試験出題基準』に従い、セミナー等だけではなく、課外での塾（対策講座）にも力を入れ、今後も学生の学修意欲を学修成果につなげられるよう努力していく。